

【基本方針】

「利用者がまた来たいと思うようなデイサービスを提供する」

【年間目標】

- ① 感染症対策を徹底し、利用者の安全を守る
- ② 事故数を低減し、利用者の安全を守る
- ③ 利用者個別のニーズに応えられるようなプログラムを立案、提供する
- ④ 稼働率 80%以上を目指す
- ⑤ 職員が接遇技術や介護技術を互いに高めあい、共に成長していく職場を作る

【実践計画】

- ① 感染症対策を徹底し、利用者の安全を守る
 - ・これまで行ってきた感染症対策（手洗い、嗽、手指消毒、定期的な検温、換気、フロア内の消毒、3密の回避）また、スタンダードプリコーションの徹底
 - ・職員における介護職としての職責を自覚させる。（自身の体調管理、同居家族の体調観察、異常時における所属長への報告・相談、プライベートにおける感染リスクの回避）
 - ・近隣の感染状況や利用者が使用している他介護サービス事業所の感染状況等、自施設に感染症を持ち込む可能性がある事柄についての情報収集に努め、自施設に感染症を持ち込まないようにする
- ② 事故数を低減し、利用者の安全を守る
 - ・朝礼時における事故・ヒヤリハットの情報共有
 - ・寮母会議にて事故・ヒヤリハットを考察し、今後の事故防止に活かす
 - ・気づきメモを活用し、利用者毎の事故リスクを職員間で情報共有する。そこで得られた情報を活用する事により、こういった状況が事故に繋がるのか気付くことが出来る職員育成を行う
- ③ 利用者個別のニーズに応えられるようなプログラムを立案、提供する
 - ・利用者にとってどういう個別プログラムが適切であるかを寮母会議時に立案、検討し、利用者の状態に合わせたプログラムを提供する
 - ・利用者の嗜好、生活歴が分かるようにケースファイルの内容を整備する。また、職員は利用者を知る為にケースファイルを見る習慣をつける
- ④ 稼働率 80%以上を目指す
 - ・体験利用時の対応方法を検討した上でマニュアル化し、体験時に利用者が緊張せずデイサービスに馴染めるようにする。そこで好印象を持って頂き、本利用へと繋げる
 - ・小さな悩み事でも相談して頂けるような関係性を構築する。その為、日頃から送迎時等ご家族と話すことが出来る時にコミュニケーションをとる。他にも利用者の些細な変化を報告し、ご家族がデイサービスに話しやすい環境を作る

- ・デイサービス中における利用者の些細な変化があれば速やかに報告する。また担当ケアマネからの相談については可能な限り対応する。その上で担当ケアマネとの信頼関係を構築する
 - ・デイサービスセンターふるさと有瀬の特色が一目見て分かるようなパンフレットを作成し、近隣事業所へ営業活動を行う。パンフレットの内容は定期的に更新する。また、営業方法については新型コロナ感染状況を注視し、訪問か郵送かを検討する
- ⑤ 職員同士が互いに接遇技術や介護技術の質を高め合っていく
- ・食事、入浴、排泄の3大介護の技術を徹底的に磨いていく。また、職員同士が介護技術について気軽に相談やアドバイスができ、共に学びあっている環境を作り利用者が安心して介護を任せられる職員を育成する
 - ・介護現場において、利用者の状況に即しその場で実践できる内容の研修を定期的に行い、またその内容を職員に周知し職員全体の介護技術の底上げをする
 - ・職員各自が接遇に於いて高い意識を持ち、家族、担当ケアマネが見てここであれば利用者を任せられると思って頂けるようなデイサービスを目指す
 - ・部署内全介護職員の介護福祉士資格保有を目標に、寮母会議時に定期的に勉強会を開催する。

○稼働目標

- ・令和3年度2月時点での平均稼働率 76,7%
令和4年度は10.0%上乗せし、84.3を平均稼働目標とする